

# ジャカルタ（インドネシア）における賃貸事情

<https://reform-nisso.co.jp/> ニッソウ賃貸事情研究

人口は中国、インド、アメリカについて世界第4位なのがインドネシア。

その首都であるジャカルタで、日本人が安心して暮らせる住居を探すとすると、月額1ベッドルームタイプで10万円以上 3ベッドルームとなると30万円以上はざらである。

このように東南アジアでは、シンガポールに次いで家賃が高いところがジャカルタである。

そして高温多湿なインドネシアの気候では、冷たいタイル、掃除しやすい汚れの取れやすいタイルがよく床材に使われているようである。

またメイド文化のあるジャカルタでは、奥さんが料理をしないため、キッチンがけして使い勝手の良いように作られてはいない。

そして集合住宅においてペットの飼育は基本禁止のようである。

日本人に人気エリアのジャカルタ中心部のスティルマン通りに近いシティウォーク、このショッピングモールには、日本食スーパーがあり近くのアパート群から徒歩で買い物に行く事ができる。

また、レストランも充実しており、日本人の味覚に合う日本食を食べることができると、特に単身赴任者に人気のエリアになっているようだ。

近辺のビルには日系企業も多数入っており、徒歩で通勤している人も多く見受けられる。

このエリアでは、日本語が通じ、24時間営業の日系クリニックある。

種類の住まいの形としては、次のとおり「コス」と「サービスアパートメント」、いずれも集合住宅である。

## **(コス)**

コスは、キッチンなど共有となっている日本でいうシェアハウスのような住まい。

敷金や礼金などはなく、デポジットといわれる保証金があるだけで毎月家賃を支払うタイプ。

日本でいうウィークリーマンションのような感じと思ってもらうと解りやすいのではないか。

最近では高級なプールやジムのついたコスも出てきたので、一概にコスだからよくないとも言えなくなっている。

## **(サービスアパート)**

サービスアパートとは、日本でいうマンションのような住まいで、ほとんどのサービスアパートには、ジムやプールが備わっている。

2年契約のところが多く、初期費用が高額であるため、大手企業の駐在員などが住んでいる。

またセキュリティーがしっかりしているので、安全面を重視するならばサービスアパートを選んだ方がよいようだ。

アパートメントに住むメリットは日本と同じで、隣に誰が住んでいるか知らないことも多いぐらいにプライバシーが守られるということ。

オートロック、カードキーがないとエレベーターに乗れないなどセキュリティー面も充実している。デメリットとしては家賃の先払いと、日本よりも広い部屋が多いため掃除が大変なこと。

水道・電気代の支払い、飲み水の注文から、部屋でのトラブルに修理屋を呼んだり、自分で手配することが多く手間がかかる。

ただし、こうしたデメリットは安価で雇える家政婦さんを利用することで解決可能、週に2～3回掃除に来てもらうということもできる（月5000円～1万円程度）。

なお一人暮らしで、電気代は月額5,000円～1万円、水道代は月1,500円～3,000円、インターネット・ケーブルテレビ代として月額3,000円ほどが別途必要。

住宅事情を見るに、ジャカルタはけして住みやすい都市とは言えなそうだ。